

日本鐵鋼協會記事

理事會 (昭和 14 年度第 2 回)

日時 昭和 14 年 4 月 5 日(水)午後 5 時 20 分開會 7 時閉會

出席者 齋藤 大吉 渡邊 三郎 吉川 晴十
 監事 堤 正義
 前會長 俵 國一 河村 驥
 常務委員 三島 徳七 鹽澤 正一

協議事項

1. 關西支部維持費に關する件
3. 編輯委員廣瀬政次君退任に付其補缺の件
 (決定) 日本ニッケル時報局技師工學士山口眞申君委嘱
5. 編輯補助 山下義雄, 赤山 榮辭職に付其補缺の件
 承認
4. 日本鐵鋼協會野田文庫圖書閱覽内規の件
 (決定別項)
5. 入退會者及び會員異動

會員異動總計表

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
入會者數	—	—	—	11	30	41
退會者數	—	—	—	—	1	1
死亡者數	—	—	—	1	1	2
轉格者數	—	—	—	+ 48	- 48	0
現會員數	14	50	20	1,432	1,537	3,053
前月と較	—	—	—	+ 58	- 20	+ 38

退會者氏名 准會員 坂本守雄

報告事項

1. 編輯委員石田四郎君公務を帶び 2 月 29 日東京驛出發渡歐
2. 日本鐵鋼協會野田文庫購入圖書 (目次別項)
3. 第四回工學大會實行委員會報告

編輯委員會 (昭和 14 年第 1 回)

日時 昭和 14 年 3 月 22 日(水)午後 5 時開會 7 時閉會

出席者

石原 善雅 石田 四郎 田中 清治 齋藤 彌平
 三島 徳七 鹽澤 正一 志村 繁隆

協議事項

1. 鐵と鋼第 25 年第 5 號上掲論文原稿選定の件

決定原稿

- 1) 角鋼の壓延下率と幅の擴がり, 先進率及壓下抗力
 元森 信夫
 - 2) 合銅鋼並に低ニッケル合銅鋼の鍛鍊試驗
 藤原 唯義
 - 3) 電弧熔接用被覆劑の電弧現象に及ぼす二, 三の特性
 (第 2 報) 柴田 晴彦
 - 4) 鐵・クロム・銅系平衡狀態圖に就て
 森脇 和男
 - 5) 水素が鋼の機械的性質に及ぼす影響 (所謂水素脆性に就て)
 萩原 巖
2. 鐵と鋼第 25 年第 4 號上掲抄録原稿審査

3. 第 24 回通常總會, 第 21 回講演大會開催準備打合
4. 研究部會プログラム決定
5. 鐵鋼要覽編纂の件

講演會

日時 昭和 14 年 3 月 24 日(金)午後 6 時 30 分開會

場所 帝國鐵道協會々館

講演

- 1) 日本刀鍛鍊法に就て

日本刀鍛鍊會主事海軍大佐 倉田 七郎君

- 2) 鋼の結晶粒度に就て (日本學術振興會第 19 小委員會關係の研究)

早稻田大學助教授 工學士 前田 六郎君

定刻吉川理事開會を宣し直ちに司會者席に移り倉田氏を紹介し講演約 1 時間 30 分にして終りたるが時節柄同講演は大衆の興味に適し質問者多數ありき。5 分休憩後司會者の紹介に依り前田氏登壇し鋼質改善に最も密接なる鋼の粒度に就て 1. 緒言 2. 粒度の意義 3. 粒度の測定法 4. 粒度と鋼質との關係 5. 粒度の調整 6. 結論の順序に講演されたり。出席者 130 名, 満場得る所多大にして盛會裡に午後 9 時 35 分散會せり。

茲に兩氏の有益多趣の御講演に對し深甚の謝意を表する次第である。

日本鐵鋼協會第 18 回研究部會

部門 第二回燃料經濟部會

日時 昭和 14 年 4 月 1 日(土)午前 9 時開會 午後 4 時 30 分終了

場所 帝國鐵道協會々館

議題 平爐熱勘定 (IV)

開會順序

1. 開會の辭 日本鐵鋼協會々長 齋藤 大吉君
1. 資料要項作成に就て説明 第二回燃料經濟部會委員長 海野 三朗君
3. 資料整理に就て説明 常務委員 田中 清治君
4. 各工場提出資料に就て説明 各工場推薦委員
5. 討議
6. 閉會之辭 會長 齋藤 大吉君

出席者

工場推薦委員

- | | |
|------------------|------------------|
| 籾内 周三郎君(陸, 大, 工) | 酒井 衆三郎君(陸, 大, 工) |
| 荒川 直三君(日鐵本社) | 島村 哲夫君(日鐵八幡) |
| 木原 克己君(日鐵八幡) | 武田 喜三君(日鐵八幡) |
| 藤村 哲之君(日鐵釜石) | 會我部 光晴君(日鐵富士) |
| 杉原 志郎君(日鐵大阪) | 井上 孝君(日鐵兼二浦) |
| 林田 恒雄君(日本製鋼) | 藤原 唯義君(日本鋼管) |
| 郷 義二郎君(日本鋼管) | 堀江 實君(日本鋼管) |
| 庵 忠正君(日本鋼管) | 中野 弘策君(大阪製鋼) |
| 矢島 弘一君(川崎製鋼) | 園田 茂三郎君(川崎製鋼) |
| 舟田 四郎君(鶴見製鐵) | 深堀 佐市君(鶴見製鐵) |
| 島村 能夫君(中山製鋼) | 葛浦 正俊君(神戸製鋼) |

白川龍水君(尼崎製鋼) 藤田守太郎君(昭和製鋼)
 野口茂正君(昭和製鋼) 栗田滿義君(住友製鋼)
 荒木彬君(住友製鋼) 絹川武良司君(住友鋼管)
 鈴木秋三君(住友鋼管) 武林誠一君(吳海工)
 俵信次君(海技)

本會推薦委員

(昭和製鋼)福井眞君 (東北大)的場幸雄君
 (東北大)濱住松二郎君 (阪大)藤井寛君
 (九大)井上克己君 (九大)谷村照君

本會役員

會長齋藤大吉君 理事吉川晴十君
 前會長河村颯君 前會長水谷叔彦君
 常務委員田中清治君 常務委員三島徳七君
 常務委員鹽澤正一君 編輯委員石原善雄君
 編輯委員網谷俊平君

本回にて配布の印刷物次の通り

1. 日本鐵鋼協會第 18 回研究部會第二回燃料經濟部會「平爐熱勘定に就て參考資料」

之れは各工場提出の資料を一括編纂のものにて本部提出

2. 「統計的に見たる平爐の熱勘定に就て」
昭利製鋼所動力部熱管理所提出
3. 平爐の熱勘定計算法 其四
川崎造船所製鋼工場 矢島弘一氏提出

部門 第 10 回製鋼部會

日時 昭和 14 年 4 月 1 日(土)午後六時開會 午後 9 時終了

場所 帝國鐵道協會々館

議題 電氣製鋼研究會

開會順序

1. 晩餐 午後 5 時
2. 開會の辭並に委員長選舉

日本鐵鋼協會々長 齋藤大吉君

3. 委員長挨拶
4. 討議
5. 決議
6. 閉會の辭

會長 齋藤大吉君

定刻を過ること 20 分、先づ會長開會の挨拶を述べられ引續き委員長選舉を略し川崎舍恒三氏を委員長に推薦したるも川崎舍氏已むを得ざる御事情出來の爲め本日缺席に付臨時座長に吉川博士を煩すことを一同に諮り満場異議なし、議事の進行に付き大同製鋼株式會社熱田工場長林達夫氏に説明を乞ひ引續き討議に入り漸く討議終了し決議に入りて座長吉川博士立ちて「本研究會の進行上準備委員會を設け研究問題等を調査決定し資料を蒐集整理の上本會を開くこと」を宣言し一同賛意を表し大満足裡に解散せり。

出席者

工場推薦委員

林達夫君(大同製鋼) 吉田正夫君(大同製鋼)
 楠正允君(大同製鋼) 神戸武雄君(大同製鋼)
 田宮利彦君(三菱電機) 中村素君(芝浦製作)
 堀切政康君(住友機械) 越智通久男君(住友機械)
 荒木彬君(住友製鋼) 絹川武良司君(住友鋼管)
 鈴木秋三君(住友鋼管) 荒川直三君(日鐵)
 小林佐三郎君(日本製鋼) 藤原唯義君(日本鋼管)

笹部誠君(鋼管電氣) 茂木吉治君(日本高周)
 稻津健介君(日本砂鐵) 林田恒雄君(日本製鋼)
 大垣梅雄君(特殊製鋼) 山口正君(川崎製鋼)
 谷山巖君(川崎製鋼) 矢島弘一君(川崎製鋼)
 日下和治君(撫順炭鐵) 大澤隆三君(神戸製鋼)
 野崎榮君(山陽製鋼) 田村勝人君(日立工場)
 小塚壽吉君(日立安來) 高田安雄君(品川白煉)
 寒川恒一郎君(東海電極) 肘岡甫君(本溪特鋼)
 福留富治君(東鋼廣田) 和田懿君(東京電燈)
 岡憲一君(日本鐵屑) 田子島茂治君(鐵山局)
 石川薰君(海横工) 松山寛慈君(海空)
 武林誠一君(海吳工) 藪内周三郎君(陸大工)
 寺門茂君(海技)

本會推薦委員

(東大)吉川晴十君 (東北大)的場幸雄君
 (東北大)濱住松次郎君 (阪大)藤井寛君
 (九大)井上克己君 (東工大)武井武君

本會役員

會長齋藤大吉君 理事渡邊三郎君
 理事松下長久君 前會長今泉嘉一郎君
 前會長俵國一君 前會長河村颯君
 前會長水谷叔彦君 常務委員三島徳七君
 常務委員鹽澤正一君 編輯委員石原善雄君
 編輯委員網谷俊平君 編輯委員齋藤彌平君

以上兩部門共後日研究部會報告として發表するものとす。

日本鐵鋼協會第 21 回講演大會

第一日 四月二日(日) 講演會 午前之部 午前九時開會

會場 東京市麹町區丸ノ内三ノ四 帝國鐵道協會々館

出席者 約 550 名

本日出席者へ配布の印刷物

1. 昭和 13 年度會務會計報告書
2. 新内規抜刷
3. 出席者名簿
4. 服部賞、香村賞、俵賞、渡邊賞各受領者推薦理由書
5. 第二十一回講演大會講演大要並に前刷

先づ定刻の振鈴會圖に齋藤會長登壇一場の挨拶ありて開會を宣し直ちに司會者席に移り次記の講演プログラム第一番及び二番を司會し河村博士と交代河村博士司會の許に講演第 3~4 迄續け時正に總會開會の定刻となつた。總會終了後食堂に入晝食休憩、午後一時振鈴講演會午後の部開會、先づ水谷博士司會し講演順番第 5~7. 渡邊博士司會し第 8~10. 村上博士司會し第 11~12 番を以て本日の講演プログラムを順調に了た。

晩餐會 午後六時開會 出席者 108 名

會場 帝國鐵道協會々館食堂

先づ主卓には來賓、服部、香村、俵、渡邊各賞受領者及び本會役員着席す。一同着席するや歡談裡に晩餐を取りデザートに入るや齋藤會長立一場の挨拶に引續き例に依り數氏の卓上演説あり早くも時八時を過ぐ會長立一同の健康を祝して閉會を告ぐ一同拍手大満足裡に散會した。

第二日 四月三日(月祭) 講演會 午前之部 午前九時開會

本日出席者約 600 を算す。

本日は既定の通り講堂を二ヶ所に設け第一部會場を二階、第二部

場を三階とした。

第一部に於ては先づ齋藤會長司會し講演順番第 13~15. 水谷博士司會し第 16~18. 晝食。

第二部にては吉川博士司會第 22~24. 河村博士司會第 25~27. 晝食。

午後一時より講演會午後の部開會先づ第一部にては金子博士の司會にて第 19~21. 第二部にては川上博士の司會にて第 28~30 演了後、第一部會場を閉じ第二部會場に合併し俵博士司會の許に第 31~32 番迄講演し司會者交代齋藤會長司會の許に第 33 番を演了し今季大會の講演プログラム全部を最も順調に演了し盡した。

而して會長登壇され司會者並に講演者諸氏へ厚く謝辭を述べられ會員一同の熱誠を謝し尙ほ翌日の見學に就て説明するところあつて閉會を告げられた時午後四時半満場大拍手を以て満足の意を表し最も盛況裡に散會した。只聽講者の熱心の結果會場に満溢し狹隘を見たるは遺憾であつた

講演プログラム (本プログラムは會誌に掲載する暇がなかつたので此所に記録して置くこととする)

日本鐵鋼協會第 21 回講演大會プログラム
日本鐵鋼協會第 24 回通常總會

第一日 4 月 2 日(日) 午前九時開會

會場 東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會々館
(省線有樂町驛北方約一丁)

開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會々長
工學博士 齋藤 大吉君

講演 午前之前部

演 題 講演者

1) 分光器に依る鐵鋼の定量分析
三菱重工業株式會社社長崎造船所 工學士 金森 政雄君

2) 鐵鋼分光定量分析の實用化に關する實驗
川崎造船所製鋼工場 理學士 門川 勳君
同 工學士 長田 欽也君
— 10 分休憩 —

3) 高珪素鋼シートバーの製作
日本製鐵株式會社八幡製鐵所 工學士 西村吉太郎君

4) 我國に於ける回轉爐の製銑試驗に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所 工學士 大原 久之君

日本鐵鋼協會第 24 回通常總會

(午前 11 時 20 分開會)

會場 東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會々館
開會之辭 社團法人日本鐵鋼協會々長
工學博士 齋藤 大吉君

1. 議 事

- イ. 昭和 13 年度會務報告
- ロ. 昭和 13 年度收支決算報告
- ハ. 昭和 14 年度收支豫算報告
- ニ. 任期滿了評議員(半数)改選(投票開票)

2. 表彰式

- イ. 服部賞牌並に同賞金贈呈式
- ロ. 香村賞牌贈呈式
- ハ. 俵賞金贈呈式
- ニ. 渡邊賞牌並に同賞金贈呈式

閉會之辭

總會終了

晝食 (帝國鐵道協會々館食堂)

講演 午後之前部

演 題 講演者

5) 磨耗機構に對する一考察
日立製作所龜有工場 小坂誠市郎君

6) 熔鋼溫度測定に關する二、三の研究
住友金屬工業株式會社製鋼所 理學士 菅野 猛君

7) 昭和製鋼所第 3, 4 期増産計畫の製銑設備の概要と其の後の経過に就て
昭和製鋼所銑鐵部第二製銑工場長 三宅徳太郎君
— 10 分休憩 —

8) 熔鐵中の FeO の水素による還元平衡
北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
講演者 同大學金屬化學研究室 理學士 田尻 惟一君

9) 炭素鋼の結晶粒の大きさに就て
講演者 住友金屬工業株式會社製鋼所研究部長
柳澤 七郎君
同所研究員 山下 政明君

10) 特殊鋼の結晶粒成長に就て
日立製作所冶金研究所 工學士 芥川 武君
— 10 分休憩 —

11) 昭和製鋼所の新設熱風爐の設計と熱効率に就て
昭和製鋼所銑鐵部長 工學士 淺輪 三郎君

12) 學振 19 小委第四號鐵及び鋼水素分析方法(眞空加熱法)
東京帝國大學名譽教授
日本學術振興會 工學博士 俵國 一君
第 19 小委員會委員長
第 1 日講演終了

晚餐會 午後 6 時

會場 帝國鐵道協會々館食堂(丸ノ内 3 丁目 4 番地有樂町驛より徒歩 2 分)

會費金參圓也

第二日 4 月 3 日(月・祭) 本日は講演會場を二部に分ち開會す
會場 帝國鐵道協會々館

講演 午前之前部

第一部會場 (帝國鐵道協會々館二階講堂)

13) 鋼の熱處理に伴ふ窒素の熔解及び析出に就て
講演者 吳海軍工廠製鋼實驗部海軍技師
工學士 早矢仕 功君

同 廠 同部 胡田 優君

14) 不均質材料の破斷條件
神戸製鋼所技師 工學士 梅澤光三郎君

15) 鹽浴焼入に關する研究
日本製鋼所室蘭製作所 理學士 阿部 三郎君
— 10 分休憩 —

16) 不銹鋼製タービン翼材の電氣直接加熱と熱膨脹自動焼入に就て
講演者 住友金屬工業株式會社伸鋼所
工學士 川島 浪夫君
同 飛田 勇次君

17) 構造用高張力鋼板の試作研究
日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所技師 前田 元三君

18) 航空機用強力オーステナイト不銹鋼板の研究

住友金屬工業株式會社伸銅所

講演者 堀 健爾君
大橋 秀吉君

晝食

講演 (午後之部)

19) アルミニウム及其の合金のガス溶解度 (第2報)
東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君
同大學工學部冶金學教室

講演者 工學士 楠谷 繁雄君

20) 耐蝕性マグネシウム合金 CZM 板に就て
東京帝國大學航空研究所 工學士 麻田 宏君
故 工學博士 後藤 正治君

21) 鑄鐵に於ける炭素の溶解度に就て
理化學研究所飯高研究室 理學士 眞殿 統君
第二部會場 (帝國鐵道協會々館三階講堂)

22) 各種鐵鑛石の物理化學的性質に就て
日本製鐵株式會社八幡製鐵所研究所 須賀 音吉君

23) 鐵鑛の磁化焙燒に關する研究 (第一報)
昭和製鋼所研究所 工學士 後藤 有一君

24) 鋼中の微量ガスの精密分析裝置
北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
講演者 同大學金屬化學研究室 理學士 田尻 惟一君

— 10 分休憩 —

25) 鐵鋼中のサンド分析方法に就て
日本製鋼所室蘭製作所 工學士 小林佐三郎君
講演者 理學士 金森 祥一君
越谷 粕藏君

26) 比較的低溫度に於ける純鐵中の水素の溶解度測定並に鋼
中微量水素の測定裝置
講演者 北海道帝國大學教授 理學博士 柴田 善一君
日本製鋼所室蘭製作所 理學士 前川 靜彌君
柳澤 三郎君

27) 冷間加工後の特殊鋼線に及ぼす低温焼鈍の影響に就て
東京帝國大學教授航空研究所員 工學博士 石田 四郎君
同 航空研究所
講演者 工學士 川崎 正之君

晝食

講演 (午後之部)

28) 滲炭平衡に就て
東北帝國大學助教授 工學博士 佐藤 知雄君
講演者 同大學工學部金屬工學科 工學士 山中 直道君

29) ニッケルを含まざる肌燒鋼の研究
講演者 東京帝國大學航空研究所 東村 三郎君
東京帝國大學教授航空研究所員 工學博士 石田 四郎君

30) Cr-Mo 鋼並に Cr-Ni 鋼に及ぼす Cb の影響
講演者 住友金屬工業株式會社鋼管製造所 大倉 幸雄君
同 所 大森 仁平君

— 10 分休憩 —

休憩後第二部會場へ合併

31) 銑鐵の黒鉛組織に及ぼす溶解溫度の影響
講演者 東京帝國大學助教授 工學士 田中 清治君
朝鮮窒素株式會社製鐵部 吉田 高明君

32) 屑鐵及び不純物少き海綿鐵を原料とせるニッケル・クロム

鋼の機械的性質の比較

東北帝國大學教授金屬材料研究所員

理學博士 岩瀬 慶三君

講演者 同 所 工學士 熱田 友二君

— 10 分休憩 —

33) ニッケルを含まざる電氣抵抗用鐵合金の研究
東京帝國大學教授 工學博士 三島 徳七君
閉會の辭 會長 齋藤 大吉君
講演全部終了

第三日 4月4日(火) 工場見學

今朝は天氣清明にして花未だ早きも郊外の情景は彌々朗らかを感じせしめる頃將に見學には好適日らしくあつて既定の集地川崎驛前に見學者は定刻前より續々到着し自動車準備の遅きを憾む有様であつた。

一方自動車準備は現今國策上ガソリンの使用統制あり其の使用許可願手續き等の爲め餘程以前に予契約を要するので前例を參酌して拾數臺を準備し置きたるも今季の出席申込者意外の多數となり其の爲め準備方は尠ならず狼狽を呈し出席者方へ對して申譯がなかつた。兎に角互助のお蔭で順調に終始せしことを感謝する次第である。

先づ定刻間近く兼ねて命じ置きたる東邦旅行協會の貸切車は揃ひ順次に日本製鐵株式會社富士製鋼所へ向け送り出した。

富士製鋼所にては松居所長始め多數の所員の歓迎を受け豫て同所と打合せの通り歴延工場の一部と最も新進のフープ工場を拾數班の案内者に導かれ順次見學した。同所にては見學者一同はフープ工場に最も興味ありしやうに感じた。見學した者より順次同所の設けの席に入り茶菓の接待を受け御厚意を謝し直ちに乗車して川崎窯業株式會社へ向け出發し川崎窯業株式會社に到着するや先づ受付にて營業案内の印刷物の配布を受け順次案内者に導かれ原料置場、成形工場、燒成工場等見學した。殊に成形工場にては各種製鐵製鋼用煉瓦の製造中にて就中カナルストンの成形に全工場をあげてゐるかに見受けられた。最後に同社の製品及び試験品の陳列を見學し其の優秀なるを見國産品に確信を得一同大満足裡に辭去し再び乗車し日本鋼管株式會社扇町工場へ向た。同工場の本邦唯一のトーマス銑製造熔鑛爐を中田工場長始め數人の案内者の説明を得御厚意を謝し徒歩にて同會社第二工場即ちトーマス轉爐工場へ向ふ

本會社のトーマス製鋼は同社取締役今泉博士の數十年來の宿志茲に現れたるもので本邦に於ては本社唯一ヶ所である。

此の鐵鋼法は屑鐵を要せざる製鋼法であるから現時の國策に最も則して居る。先づ工場に至れば數基の轉爐より強焔轟々として吹上り壯觀を呈し十數分間にして一基の轉爐より 20t 宛の熔鋼が飛出すには一同驚膽して見とれ離れ難たそうに感じた。

引續き同社第一工場の新大型歴延工場に至り大形溝形鋼の歴延を見學し大形建築材の製造に最も興味を深くしたやうに見受けられた。同社工場の見學を終り同社の食堂にて晝食の御接待を受け暫時休憩の後松下常務取締役の鄭重なる歓迎の挨拶あり之に對して齋藤會長一向を代表し厚く謝意を表し午後 1 時 30 分迄休憩し次の見學場工鶴見製鐵造船會社へ向はんとする頃朝の天候一變し春雨となりしも一同元氣を出し出發をいそぎ乗車し鶴見製鐵に向た。

鶴見製鐵造船株式會社にては受付にて同社の營業案内及び川崎

鶴見臨港地帯案内圖の配布を受け先づ本會の爲め兼ねて設けの大天幕内に入り茶菓の接待に預り小憩中淺野同社々長の歓迎の挨拶あり之に對し齋藤會長一同を代表し深甚の謝意を表し、頃大雨となりたるも意とせず多數案内者に導かれ造船工場より製鐵工場に至り同社の新熔鑪及び附屬のグリーン焼結装置を詳しく見學し終て麒麟麥酒株式会社横濱工場に向ふ。

麒麟麥酒社にては約束の時間経過せるも一部の工人を残り置き見學者の爲め特別の便宜を與へられ且つ御自慢の生麥酒をたらふく御接待を得一同歡喜して辭去し之れにて本回の見學を終了し、一同得る處多々にして大満足裡に解散し歸路は貸切バスにて省線鶴見驛迄送た。

今回の見學人員は富士製鋼所へ到着は約 500 名にして川崎窯業日本鋼管會社は共に約 530 名鶴見製鐵造船會社は 450 名麒麟麥酒會社到着約 400 名にして本會見學會開始以來の大盛況且壯觀を呈した。

終りに各見學工場に對し深甚の謝意を表す。

日本鐵鋼協會圖書閱覽內規

1. 本會々員は圖書室所藏圖書を隨時閱覽し得るものとす。但し會員の紹介に依り會員外のもの、閱覽希望ありたるときは特別の場合に限り之を許可することあるべし
2. 閱覽者は庶務掛に申出で閱覽票を受け之に所定の事項記入の

上圖書掛に之れを提示するものとす

3. 圖書掛は閱覽票に依り圖書を閱覽者に交付す
4. 圖書は事務所以外に持出すことを禁ず
5. 圖書閱覽を終りたるときは圖書掛に之を返却するものとす
6. 閱覽票は圖書 1 冊毎に使用するものとす
7. 庶務掛は閱覽を許可したるときは閱覽票に捺印するものとす
8. 圖書掛は圖書の返却を受けたるときは閱覽票に捺印し之を庶務掛に送付するものとす
9. 閱覽時刻は日曜祭日其他休日を除き毎日午前 9 時より午後 4 迄とす
10. 閱覽票は次の通りとす

(昭和 14 年 4 月 5 日理事會議定)

閱 覽 票			
閱 覽	年 月 日	庶 務 掛	圖 書 掛
姓 名			會員別
圖 書 稱			圖 書 符 號
備 考			

新 入 會 者 氏 名 (昭和 14 年 3 月末日現在)

居 所 又 は 宛 名 先	勤 務 先 又 は 職 業	會 員 別	入 會 者 氏 名	紹 介 者
富山縣新湊町 向島區隅田町 1 / 129	久保田鐵工場隅田川工場	正會員	日本高周波重工業會社 富山工場 梶 間 優君	茂村 風村 / 栗栗 前久村 / 梅 鈴 時 村 田 村 寺 比
京都府舞鶴市 大阪市住吉區南加賀屋町 354 (住吉 4180)	舞鶴海軍工廠機關實驗部	正會員	明光重工業株式會社	本 澤 田 保 松
芝區君塚町 18 (高輪 1522)	工學士 早大助教授	正會員	秋 山 桂 一君	順 之 正 六
熊本縣八代町建馬日本セメント會社製鋼所	工學士	正會員	高 田 邦 雄君	橋 太
板橋區板橋町 6 / 3464 板橋ハウス内	工學士 日本特殊鋼管會社戸田工場	正會員	藤 本 智君	津 木 千 七 代 藏
城東區南砂町 9 丁目東京シャリング會社砂町工場 (本所 2377)	工學士	正會員	和 田 清君	松 中 橋 清 太 郎
八幡市日鐵八幡製鐵所製鋼部	工學士	正會員	横 山 忠 一君	村 松 橋 太 郎
豐中市櫻塚 1267	工學士 ビー・シュミツ工業事務所	正會員	西 村 吉 太 郎君	松 内 錦 彌
川口市榮町 1 丁目 39 千葉製作所社宅	工學士 千葉製作所川口鑄工場	准會員	鹽 田 武君	千 葉 信 三 郎
大阪市此花區島屋町住友金屬工業會社製鋼所	工學士	准會員	南 條 善 雄君	里 井 孝 三 郎
鞍山市北三條町青葉寮	工學士 昭和製鋼所製鋼工場	正會員	高 岡 一 郎君	嘉 村 平 八 郎
神戸市林田區大丸町 1 / 18	工學士 三菱重工業會社 神戸造船所鑄造工場	正會員	山 田 忠 幸君	楠 瀬 四 郎
高雄市入船町 2 / 3	工學士 臺灣鐵工所鑄物工場	正會員	松 下 源 一君	村 松 橋 太 郎
米子市日野町 56	工學士 日曹會社米子製鋼所物理試驗室	正會員	仲 宗 根 武 雄君	濱 田 文 藏
足立區上沼田町 207	工學士 東邦鋼業株式會社	正會員	岡 本 陽 吉君	大 庭 博 隆
澁谷區代々木西原ノ町 884	工學士 東京帝大工學部冶金學教室	正會員	渡 邊 進君	三 島 德 七 一
札幌市北大金屬化學研究室	工學士	正會員	梶 山 正 孝君	柴 田 善 太 郎
大阪市西區江ノ子島大阪府工業獎勵館金屬部	工學士 大阪帝大工學部金屬工業研究室	正會員	田 尻 惟 一君	上 田 太 郎
靜岡縣磐田郡今井村深見 2075	工學士 阪大在學	正會員	飯 田 種 男君	多 賀 谷 正 義
戸畑市小芝町 4 / 26	工學士 日立製作所戸田工場	正會員	北 島 禮 三君	三 宅 隆 一

高知市孕東町 49 土佐電氣製鋼所 (電 1496)	准會員	山 岡 一 男君	原 勇 一
大阪市此花區島屋町住友金屬工業會社製鋼部	"	武 富 五 男君	坪 内 義 也
福岡市外箱崎町御茶屋跡 3167 松岡方	工學士 九大工學部冶金學教室	井 本 武 男君	谷 村 熙
王子區下十條陸軍造兵廠東京工廠技術課	"	堀 實君	金 子 吉 雄
橫濱市鶴見區東寺尾町 2036	特殊製鋼株式會社	鈴 木 正 義君	武 田 龜 藏
橫濱市鶴見區潮田町 2888 秋田製鋼會社鶴見鍛造所 (川崎 3031)	"	松 岡 直 治君	花 岡 元 吉
大森區新井街 4 / 957	理學士 日本火工株式會社試驗室	川 畑 正 夫君	風 間 篤 次 郎
杉並區西荻窪 2 / 38 杉並莊內	中島飛行機會社東京工場	飯 出 直 人君	松 家 勝 男
大阪市此花區堂島濱通 1 / 1 堂島ビル	工學士	荒 川 清 治 郎君	川 端 駿 吾
尼崎製鐵會社 (北 4973)	"	市 川 健 治君	利 光 一 久
長崎市茂里町三菱重工會社長崎兵器製作所	住友金屬工業會社製鋼所	瀧 本 鐵 男君	山 本 信 公
大阪市天王寺區小宮町 17	日本理化工業會社研究部	増 田 武 雄君	村 松 橋 太 郎
橫濱市中區南太田町 2 / 161 / 2	新潟鐵工所新潟工場	三 村 徹 榮君	西 名 權 太 郎
新潟市礎町通 4 / 町 2 / 108	"	佐 藤 義 雄君	立 山 重 紀
橫濱市鶴見區生麥町神明前 2036 昭和特殊製鋼株式會社 (鶴見 1335)	"	山 下 計君	"
橫濱市鶴見區生麥町神明前 2036 昭和特殊製鋼株式會社 (鶴見 2335)	"	福 田 正 治君	"
"	"	松 木 貞 行君	"
蒲田區糞谷町 2 / 332	昭和特殊製鋼會社	大 石 正 雄君	三 宅 隆 一
戶畑市明治町 2 丁目 日立製作所戶畑工場鑄造課	"		

准會員より正會員へ轉格者氏名

伊東謙治郎君	石田 哲君	石田 仁君	早矢仕 功君	原本 利雄君	西川 武雄君	富塚 誠君
竹間 元二君	大川二十二君	小川梯二郎君	刈田 清一君	甲斐 彌君	川口 良夫君	壁谷 眞蔭君
金田 義夫君	楊 炳 添君	横山 恭彦君	角尾 敏彦君	堤 英三郎君	根 守 侃君	根本文次君郎
中部 左内君	中野福三郎君	内田 吾朗君	枝 和四郎君	山本 次郎君	山崎 信三君	藤田 輝夫君
小池 眞一君	小島兼三郎君	寺下 一光君	寺野 温良君	此口 重光君	淺野 正敏君	雀部 高雄君
坂本 要三君	齋 藤 潔君	木名瀬 誠君	北 原 孝君	木下 泰重君	木 下 正君	百合 壽馬君
三河 定男君	葛浦 正俊君	重田 吉造君	日野 芳三君	鈴木 芳郎君	龍 道 雄君	

死亡者

正會員 片山謹一郎君(3月29) 准會員 五明富治君(3月15)
以上兩氏の訃に接したるは洵に痛惜に堪えず茲に謹んで弔意を表す

日本鐵鋼協會野田文庫購入圖書 (3月分)

Authors.	Titles.	
Robiette, A. G.-	E'ectric Melting Practice.	1935 R-13
O'Neill, H.-	The Hardness of Metals and Its Measurement.	1934 O- 8
Bullens, D. K.-	Steel and Its Heat Treatment. Vol. II. Engineering and Special-purpose Steels.	1939 B-25
Lawrence, E. S.-	The Manufacture of Steel Sheets.	1930 L-9
Tafel, W.-	The Theory and Practice of Rolling Steel.	1931 T-14
Turner, T. H., Rollason, E. C. & Budgen, N.F.-		

Metal Spraying.	1939 T-15
Hoff, H.-	
Die Huttenwerkbanlagen. Bd. I. Anlagen zur Gewinnung und Erzeugung der Werkstoffe.	1938 H-28
Funk, H.-	
Die Darstellung der Metalle in Laboratorium.	1938 F- 6
Masing, G.-	
Handbuch der Metallphysik.	
B. I. Der Metallische Zustand der Materie.	1935 M-22
Hanemann, H. & Schrader, A.-	
Atlas Metallographicus. Bd. I. Kohlenstoffstähle, Langsam gekühlt und geglüht.	1933 H-30
Hanenann, H. & Schrader, A.-	
Atlas Metallographicus. Bd. II. Lief. 1. Lief. 2. Lief. 3. Lief. 4.	1936 H-31

PERIODICALS.

(M-3) Metals and Alloys. (Monthly) from January, 1939
(H-1) Heat Treating and Forging. (Monthly) from January, 1939